

平成 22 年 1 月

鋼材 LCI に関する鉄鋼業の考え方

(社)日本鉄鋼連盟

- 鉄鋼業では、世界鉄鋼協会 (worldsteel) が既に世界共通の LCI 方法論を確立しており、各国共通ルールで鋼材 LCI の算定が行なわれている。この方法論は国際規格 ISO14040 及び 14044 (LCA) に準拠しており、セクター別の世界共通方法論として先駆的なものである。
- 近年、国際的なカーボンフットプリント制度の広がり等により、LCI 方法論の国際的なハーモナイズ化の重要性が一層高まっている。鋼材は国際取引商品でもあり、当業界では ISO はじめ国際的な動向を注視しつつ、LCI を巡る各種対応を慎重に進めているところである。
- 環境配慮面での鋼材の最大の強みは、無限リサイクルが可能な点であると言っても過言ではない。全ての鋼材は、その製品寿命を終えた後にスクラップとして回収され、何度も繰り返し再生利用され、超長年に亘り資源やエネルギーの節約に貢献する。世界鉄鋼協会の LCI 方法論では、このスクラップ活用のメリットが十全に考慮されており、またこれは ISO 国際規格でも閉ループ・リサイクルとして認められた考え方である。
- CO₂ 削減という観点からも、このスクラップ活用のメリットを LCI 方法論に十全に折り込むことが重要である。仮に不十分なまま我が国のデータが他国と比較された場合、日本製鋼材は CO₂ 負荷が高いとの不当な評価を受け、国際競争力の低下を招く上に、CO₂ 排出原単位の悪い海外鋼材への代替を誘発し、地球全体での排出増を招きかねない。
- こうしたことから、鋼材に対する不十分な環境価値評価は国産鋼材の国際競争力低下を招きかねず、環境目標に逆行する結果に繋がりにくいことを認識の上、世界鉄鋼協会の方法論との整合性を図るべきである。

以上